

現代の高等学校農業関係学科の 教育課程表の特徴について

大河内 信 夫

1. はじめに

現代の農業高校¹⁾を取り巻く状況は、非常に厳しいものがある。すなわち、米の減反政策と農産物輸入問題（いわゆる農業切り捨て政策）を機に農家の農業生産意欲の急速な減退と将来の農業経営に対する展望の喪失などから、高等学校に対する農家の一般的な期待は、農業高校による農業後継者の養成よりも、むしろ普通高校進学、さらに上級学校への進学の可能性に期待をかけるという指向を強めている。

それは一方で、いわゆる能力主義教育政策の反映として差別的な学校格差の助長により、農業高校が「底辺校」とされ、生徒が「低学力」化したという事態に反映している。いわゆる偏差値による高校選択という進学指導の影響で、現に自営者養成学科ですら入学生徒の家庭は農業を営んでいない者が多くなっており、農業自営者養成の前提そのものが崩れてきている²⁾。

また、これまでの日本農業の経営のあり方が、農地所有権と耕作権が一体のものとした小農家族経営を基調としてきたことによって、自営者養成学科で学んだ生徒の側からすれば、農業に「就職する」ということは農家以外ではほとんど不可能に近いことを意味している。

高等学校の卒業者の動向をみると、1988年度の農業に関する学科卒業者の73.1%が就職している³⁾。この就職者の職業別就業者数の多い順にみた上位3位までは、「技能工・生産工程作業員（含単純労働者）」の45.0%、「販売従事者」18.9%、「サービス職業従事者」13.6%であった。農業に関する学科卒業者の職業別就業者数では、職業分類「農林業従事者」となった者は、わずか1958人（5.4%）にしかすぎない⁴⁾。これらのことは農業高校では、職業に関する学科を置く高校のなかでも、工業や商業など他の職業高校とは違った問題をかかえていることを示唆している。

こうした複雑にからみあった問題をかかえる現代の農業高校は、ある意味においてその存在を否定されかねない状況にある。現に1989年改訂の高等学校学習指導要領は、教科「農業」の目標から「生産や経営に関する」という文言を削除してしまった。前回の1978年改訂は「農業技術の科学的根拠を理解させ、その改善を図り、農業を合理化する能力と態度を養う」という文言が削除された経緯からすれば、今回の改訂によって農業生産に直接関わる教育の放棄を宣言したと受け取れる目標の変化である。

しかも1985年の理産審答申以後、自営者養成学科を中心に学科改編と称して、既存学科の廃止と類似の学科の新設が盛んに行われている。農業に関する学科の種類数は、理産審答申がなされた

1985年に81であったものが、1990年には122と5年間に41も増加している。一方1985年から1989年までの4年間に基幹的学科である農業科の改編の動向は新設0、廃止66となっている⁶⁾。こうした戦後の新制高等学校の農業教育の転換期ともいえる時期の教育課程を全国的な規模で調査研究することは、今後の農業高校の教育のあり方を摸索するうえでも重要な役割を果たすものとなる。

ところで、各高等学校の学校要覧には、科目数がかなり限定され、しかも選択科目の幅が限られている普通科の場合でさえ、その教育課程表に示される科目の履修方法はさまざまな表示方法で記載されている。まして職業に関する学科を置く高等学校では、学科の種類だけでも、374種類もある⁶⁾。しかも同じ高等学校においても、それぞれの学科では教育課程が異なるという特徴もっている。よって、職業に関する学科を置く高等学校の全国的な教育課程の比較検討は困難とされ、ほとんど取り組まれてこなかった⁷⁾。このことは教育課程表を分析する方法論が未だ確立していないことを意味している。

本稿では、1990年に実施した全国的な調査をもとに、基幹的学科である農業科を中心とした関係学科の教育課程表の分析を通して、現代の農業高校の教育課程がもつ若干の特徴を明らかにしようとしたものである。その際、これまで一般的に農業高校の教育課程が複雑、多様とされる理由は、第一に高校が教育課程の編成を行っていること、第二に普通科目と職業科目とを履修させていること、第三に職業科目の数が多いいこと、第四に各科目の単位数が一定しないこと、第五に地域農業との関わりが大きく科目が多様であることなどがあげられている。本稿はこうした観点を念頭に置いて、全国の高校の教育課程表をいわば横一線に並べて分析する方法の試論でもある。

本稿で扱う高等学校の範囲は、第一に、全日制課程の公立高等学校を対象としている。したがって、定時制、通信制の課程および農業に関する学科を置く国立、私立高等学校は対象にしていない。第二に、対象とする学科は、農業に関する学科の分類区分として用いられる学科群「農業関係」に区分される学科と「その他」学科群のなかの「農業科学科」「農業・生活科」を加えた17学科とし、それらを一括して「農業関係学科」という名称を用いることにする。ただし、例外として、文部省指定自営者養成農業高等学校⁸⁾である静岡県立農業経営高等学校（教育課程表中「静岡県3」）「生物生産科」についてのみ、農業関係学科の教育課程表一覧に加えた。

したがって、本稿において対象となった具体的な学科名称は、以下の17学科である。

農業科、総合農業科、農林科、営農科、農業園芸科、農業経営科、ハイテク農芸科

農業・園芸科、農業畜産科、農林技術科、農畜産科、農産科学科、農業技術科、茶業科 農産園芸科、農業科学科、農業・生活科、[生物生産科（静岡県3の1校のみ）]

ここでいう農業関係学科という用語と区別するため、文部省で区分している学科群の名称としての農業関係は「農業関係」学科と「 」を付けてある。また科目名には「 」付きで表すことにした。

本稿では、農業関係学科の教育課程表一覧の資料が大量であることから、紙数に限界があるので詳細な分析まで至らなかったことをあらかじめ断っておきたい。

2. 調査方法

1990年6月9日付けで、農業に関する学科を置く全国の高等学校411校（分校を含む）に対し、平成2年度および昭和63年度以降の『学校要覧』ないしは教育課程表を含む資料について、送付の依頼状を送った。この際、本来であれば、返送用郵送料を同封すべきであり、実際いくつかの高等学校で返送用費用を必要とする旨の連絡を受けたが、調査数が多いことと依頼の条件を同じにするため、依頼状のみとした。

本稿では、回答のあったもののうち1990（平成2）年度入学の生徒に適用される農業関係学科の教育課程表について分析した。

3. 調査結果（農業関係学科教育課程表一覧）

全国農業に関する学科を置く高等学校411校のうち、回答を寄せた高等学校数は211校（回収率51.3%）であった。なお、回答を寄せた学校の中の3校は農業に関する学科をすでに廃止していたので、本研究の対象から除外した。以下では、農業関係学科を廃止した3校を除いた208校を回答校と呼ぶことにする。

回答校の中で、農業関係学科を置く高等学校は142校（回答校中68.3%）であった。1987年度における農業に関する学科を置く高等学校は453校、「農業関係」学科数は357である⁹⁾。「農業関係」学科数が、必ずしも設置学校数とまったく一致しているとは言えないが、「農業関係」学科数がほぼ学校数と同じみならず、「農業関係」学科の設置されている割合は78.8%となり、今回の調査が、全国的な農業関係学科の設置状況より10%程低い値であった。

本文末の第1表は、回答校の中で、農業関係学科を設置している学校名についての一覧表である。第2表の教育課程表一覧の整理の都合上、各学校名は県名と番号によって表示した。以下、本文中では、県名と番号および（ ）で学校名を表示することにする。

学校名の後にある▼印は普通科と併置している学校、▽印は農業に関する学科以外の職業に関する学科を併置している学校を表している¹⁰⁾。

文部省指定の自営者養成農業高校は、学校名の後にA型・B型として表示してある。A型とは、寄宿舎教育を原則として2か年実施する学校（A類型）であり、B型とは、寄宿舎教育を原則として1か年実施する学校（B類型）をいう。

全国で自営者養成農業高校の指定をうけた学校は、1984年までにA類型14校、B類型25校である。回答校に含まれるA類型は9校（A類型中の64.3%）、B類型は14校（B類型中の56.0%）であり、自営者養成農業高校全体の59.0%にあたる。

次に1990年度入学生を対象とした農業関係学科の教育課程表は、農業関係学科の設置学校名一覧表と同様、調査量が多いため、本文末尾に凡例とともに、一覧表として掲載した（第2表）。この教育課程表一覧は、全日制における開講科目を3年間の合計単位数で示している。

ところで、教育課程表は各学校ごとに記載方法が違っているため、全国的な規模で比較検討するには、一定の基準を明らかにして表示しなければならない。とくに、農業高校の場合には、一つの学科内をさらに「能力・適性、興味・関心等」によって、「類型・コース」を設けるなど、同じ学科であっても科目の履修方法にかなりの幅がみられる。また、いわゆる「選択」と称されている科目間の選択の方法にも、普通科目と職業科目との間の選択、職業科目間での選択、男女による性別履修の場合がある。さらに、農業に関する学科は1986年頃から学科の数が急速に増え続けている¹⁾。そのため全国的な農業関係学科の教育課程を並べると多様であり、また複雑にみえる。この一見多様で複雑な教育課程表を整理・分析した観点がまさに凡例に反映している。

従って、末尾に教育課程表一覧とともに凡例を比較的详细にかかげてある。各高等学校の教育課程表は、この凡例にしたがって、一定の基準のもとに整理・記載されている。次節以降の農業関係学科の教育課程の実態を分析するうえでも、この凡例は著者の分析の重要な構成要素の一部となっている。

4. 教育課程表の内容について

個別の項目の分析に入る前に、3.で整理した教育課程表について、幾つかの観点から農業関係学科の教育課程の特徴を総括的に述べる。

現代の教育課程は農業関係学科を例にとってみると、非常に多様であることを示している。この多様性の要因となっているのが、選択制である。この選択制が、生徒による科目の選択のみならず、コース・類型を設ける場合に学校が科目を選択することを可能ならしめている。後に述べるように、選択制には幾つかの履修形態が存在する。農業関係学科における選択制は現代の高等学校の選択制のほとんどあらゆる形態を包含している。しかも「家庭一般」女子必修に対応する科目として、男子には農業関係科目が置かれることがさらに複雑さを増している。

この多様で複雑な教育課程一覧からは、農業関係学科の今後の方向を摸索する学校の苦悩をよみとることができるように思われる。

(1) 総単位数および教科単位の合計について

教科単位、特別活動を含めた合計単位数は、最低単位数は96単位から最高単位数120単位まで分布していた。なお、特別活動を含めた単位数が記載されていないもの2校（栃木5（佐野高）、広島

第3表 合計総単位数の分布

単位数	96	99	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	114	117	120	不明	合計
学校数	1	1	17	3	1	21	1	2	73	2	2	7	4	2	1	2	139

*1) 単位数97, 98, 100, 101, 112, 113, 115, 116, 118, 119単位は該当校がないので省略した。

*2) 不明は学校要覧および教育課程表に合計総単位数が記載されていないもの。

*3) 次の3校は、以下の理由により本表に記載していない。
 生徒の科目選択によって合計総単位数が変わる場合……東京2(大島高校)
 コース・類型で合計総単位数が変わる場合……山梨1(農林高校)
 男女の履修単位数が異なる場合……山口4(徳佐高校)

1(油木高))、男女により履修単位数が異なっているものが1校(山口4(徳佐高)、時間外の総合実習の単位数が男女により異なっている)、生徒の科目選択によって、合計総単位数が変わる場合が1校(東京2(大島高))あった。

総単位数を108単位とする学校が最も多く73校あり、回答校の51.4%を占めていた。ついで総単位数を105単位とする学校が21校(14.8%)、102単位とする学校が17校(12.0%)の順であった。総単位数をこの3種類とする学校は、農業関係学科を置く学校の78.2%を占めていた。最も単位数の多い学校は、山形2(新庄農業高)の120単位であった。また、最も単位数の少ない学校は新潟5(十日町実業高校)の96単位である。

ところで、合計総単位数は、特別活動等を含む単位数である。特別活動等を含む単位数は各学校でほぼ6ないし9単位であり、全生徒が同じ単位数を修得する。そこで現在の教育課程編成の問題点を明らかにするために、この特別活動等は、主要な対象から除外して教科単位合計で比較検討する。

該当する学校は、学科内の合計単位数が異なる3つの場合に該当する4校を除いた138校である。除外される4校は、コース・類型によって単位数が異なる場合が2校(山梨1(農林高)、広島1(油木高))、生徒の科目選択のしかたによって単位数が異なる場合が1校(東京2(大島高))、男女によって履修単位数が異なる場合が1校(山口4(徳佐高))の3例である。

第2表の教育課程表一覧にある138校における教科単位合計の分布は、90単位から108単位までの18単位の間に分布していた。

第4表 教科単位合計の分布

単位数	90	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	108	合計
学校数	2	1	7	1	1	33	4	1	33	4	4	37	—	—	6	5	138

*1) 教科単位合計が91、106、107単位は該当校がないので省略した。

*2) 教科単位合計がコース・類型によって異なる場合、男女によって異なる場合および履修する選択科目によって合計単位数が異なる場合を除いた。

該当する学校名は次の4校である。東京都大島高校(東京2)、山梨県農林高校(山梨1)、広島県油木高校(広島1)、山口県徳佐高校(山口4)

教科単位合計についてみると、学校数の多い順に102単位とする学校が37校(138校の中の26.8%)96単位が33校(138校の中の23.9%)、99単位が33校(138校の中の23.9%)となり、上位2位までが74.6%を占めていた。農業関係学科のこの単位数は普通科に比べ多いようにみうけられる。

この点に関して調べるために、教育課程表一覧に掲げた142校のうち普通科が併置されている高等学校(併置校とする)29校に注目してみる。このうちには合計総単位数の場合と同様の理由により除外される学校が3校(東京2(大島高)、広島1(油木高)、山口4(徳佐高))、普通科のコースにおいて教科単位合計数が異なった例として宮崎3(本庄高)があり、以上の4校を除いた25校について、農業関係学科と普通科との教科単位合計を比較する。

併置校のなかで農業関係学科の教科単位合計数は、90単位から108単位の間であるが、普通科の

それは90単位から99単位の間である。普通科では、教科単位数合計数が96単位の学校が最も多く13校(52%)ある。それぞれの学校で農業関係学科と普通科との単位数の差は、0から12単位までであり農業関係学科で多く、単位数の差が6単位の学校が11校(44%)と最も多い。教科単位数の差が6単位である学校では、多く(9校)が総合実習の週時間割表外に設定された実習、いわゆる時間外実習の単位数と符合していた。

(2) 普通科目と職業科目との単位の配分について

普通科目と職業科目との単位数の配分(以下、普・職単位数配分と略する)を検討にあたって、次のような手順をとった。すなわち第一に、選択科目のうち、普通科目と職業科目のどちらか一方の科目を選択する場合(教育課程表中◎印)の単位数は、便宜的に2分の1として、双方に配分した。たとえば、普通科目単位数計45単位、職業科目単位数計48単位、普・職選択科目(◎印)3単位の学科の場合には、普通科目46.5単位、職業科目49.5単位とした¹²⁾。

第二に、農業関係学科内にコース・類型を設けている場合とコース・類型が明記されていない場合がある。また、同一学科内でコース・類型が明記されていても普・職単位数配分は同じ場合がある。これは結果的にはコース・類型が明記されていない場合と同様に扱うことができる。したがって、普・職単位数配分が同一学科内で同じ場合(126校)と同一学科内でコース・類型によって普・職単位数配分が異なる10校に分けて検討した。

この二つの区分に入らない高校、すなわち北海道9(剣淵高)、東京2(大島高)、京都1(桂高)、山口4(徳佐高)、岐阜2(加茂農林高)、広島1(油木高)の6校は以下の第5表より除外してある。

以上の手続きによって普・職単位数配分に関して以下のような特徴がみられる。

① 普・職単位数配分が同一学科内で同じ場合(126校)

普・職単位数配分を分布表にしたものが、第5表である。

普通科目の単位数は、50単位から54単位の間には80校(63.5%)が分布し、職業科目の単位数は、45単位から49単位の間には65校(51.6%)が分布している。第5表中、点線で囲まれた範囲(普通科目単位数50単位から54単位と職業科目単位数45単位から49単位の間)には44校(34.9%)と他の範囲に比較して最も多くの学校が分布している。

普通科目単位数が職業科目単位数を上回る学校は93校(73.8%)、普通・職業科目単位数が同じ学校は9校(7.1%)、普通科目単位数が職業科目単位数を下回る学校が24校(19.0%)という分布になっている。普通科目単位数が職業科目単位数を上回る場合、その差が最も大きいのは、新潟3(佐渡農高)の22単位である。逆に、職業科目単位数が普通科目単位数より多い学校は3校(群馬3(大泉高)、山形1(上山農高)、熊本4(河浦高))に過ぎず、その差は8単位でしかない。

② 同一学科内でコース・類型によって普・職単位数配分が異なる場合(10校)

同じ学科内でコース・類型によって普・職単位数配分が異なる場合について、典型的な四つの例をあげると、第一に、兵庫2(播磨農業高校)に見られる例である。ここでは農業経営科を農業系大学進学コース・水田草花コース・農業機械コースの3コースに分け、「進学」では普通科目が職業科

第5表 普通科目と職業科目の単位配分の分布

単位数	普通科目												職業科目																	
	44	45	45.5	46	46.5	47	48	48.5	49	49.5	50	50.5	51	51.5	52	52.5	53	53.5	54	55	55.5	56	57	58	59	60	62.5	計		
37																												1	1	
39																													2	2
40																													2	2
41																													1	1
42																													6	6
42.5																													3	3
43																													3	3
43.5																													3	3
44																													5	5
44.5																													2	2
45																													12	12
45.5																													2	2
46																													10	10
46.5																													2	2
47																													13	13
47.5																													1	1
48																													12	12
48.5																													1	1
49																													12	12
49.5																													1	1
50																													15	15
50.5																													2	2
51																													4	4
51.5																													1	1
52																													8	8
52.5																													2	2
53																													3	3
54																													2	2
55																													3	3
56																													2	2
58																													1	1
計	1	1	1	0	1	1	5	9	2	6	2	17	4	14	1	15	4	11	2	12	4	2	5	3	1	1	1	126	126	

注：○印は、普通科目と職業科目の単位数が同数であることを示す。○内の数字は学校数である。

目より18単位も多くなっている。しかも、普通科目と職業科目との間の選択単位が12単位あるから、この単位をすべて普通科目で選択すると30単位の差が出来ることになる。類似のものに福井1(福井農林高校)の農業科専門コース・教養コース、山口1(日置農業高校)農業科の経営開発コース・教養コースおよび高知2(幡多農業高校)農産科学科の農産コース・農業経済コース・農業基礎コースの例がある。高知2(幡多農業高校)基礎コースでは、普通科目と職業科目の単位数の差が40単位と普通科目が極端に多くなっていた。これは、1976年教育課程審議会答申で指摘された高等学校における「専門教育を主とする学科における専門教育に関する各教科・科目の最低必修総単位数は30単位とする」とした限度ぎりぎりの単位数である。

第二に、山形2(新庄農業高校)総合農業科Ⅰ類(自営指向)・Ⅱ類(進学指向)・Ⅲ類(就職指向)の例である。ここでは、選択科目が置かれていないので、普通科目と職業科目の配分がその類型の典型を示すことになるが、専門科目が農業基礎、総合実習および「総合農業」によって包括されているので、教育課程表から類型の特徴があまり明らかにならない例である。また、自営指向と進学指向での単位数の差が8単位と第一の例に比べると極端に差が大きくはない。

第三は、コース・類型にどちらかといえば「進学」を考慮せずに自営者ないしは農業技術者養成を中心としたコース・類型を編成している場合である(兵庫5(県立農業高))。この場合には、普通科と職業科の単位数の差は6単位までである。このコース・類型によって普・職単位配分が異なる場合に、普通科目と職業科目との単位差があまり大きくない(2ないし3単位)のは、履修させる科目の種類を変えることによってコース・類型の特徴をだしている例であり、これは同一学科内のコース・類型で普・職単位配分が同じ場合とほとんど変わらないといえる(静岡3(農業経営高)、岩手3(岩谷堂農林高))。

この特殊な例が栃木2(矢板高校)に見られる。コースは農業経営と農業機械であるが、農業経営の中がさらに水田・園芸・畜産・経営に分かれている。農業経営コースと農業機械コースでの普通科目と職業科目の単位配分がことなっているだけでなく、農業経営コースの中でも、「水田・園芸・畜産」の系列と「経営」系列とに分けられ、後者では普通科目と職業科目との単位数の差が普通科目に6単位多いのであるが、農業科目では、農業経営が他のコースより5単位多いだけである。

第四に、同一学科内にありながらコース・類型によって教科単位計が異なる例である(山梨1(農林高))。類似の形態として、これらの区分から除外した山口4(徳佐高)にみられる、男女によって教科単位計が異なる事例である。

(3)「選択」科目について

「選択」科目には、普通科目と職業科目との間で選択される場合(以下、普・職選択とする)と、職業科目のなかで選択される場合(以下、職業科目内選択とする)とがある。また、(2)の場合と同様、コース・類型によって単位数が変わるものがある。これらをまとめたものが、第6表である。

① 普通科目と職業科目との間で選択される場合(以下、普・職選択と略する)

第6表 普通科目と職業科目との間の選択単位数

単位数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	合計
普通科目と職業科目との間の選択(*1)	45	—	20	7	24	7	17	2	8	3	3	1	2	—	—	1	—	140
職業科目内での選択(*2)	76	—	12	6	9	2	7	6	11	0	2	1	—	—	—	—	1	132

(*1)コース・類型によって普通科目と職業科目との選択単位数がことなる山梨県立農林高(山梨1)、および教育課程表中に自由単位とされている滋賀県甲南高(滋賀2)の2校を除いた学校数である。
 (*2)コース・類型および性別により職業科目の選択履修単位数が異なる学校は、この表の数に含まれない。具体的な学校名は静岡県農業経営高(静岡3)、富山県福野高(富山2)、福井県福井農林高(福井1)、滋賀県伊香高(滋賀3)、三重県上野農業高(三重2)、兵庫県篠山産業高東雲分校(兵庫3)、広島県油木高(広島1)、山口県日置農業高(山口1)、山口県徳佐高(山口4)、愛媛県大洲高(愛媛2)の10校である。

普・職選択を置く学校は、95校(67.9%)であった。普・職選択について、その単位数と履修させている学校数の関係は、4単位履修の学校が24校、次いで2単位履修の学校が20校、6単位履修の学校が17校の順である。これらの上位3位までが普・職選択を設けている学校の62.9%を占めている。

普・職選択の単位数を10単位以上置いている学校は以下の6校である。

宮城4(栗原農業高等学校)、兵庫2(播磨農業高校)、岡山2(高松農業高校)、高知1(高知農業高校)、愛媛2(大洲農業高校)、鹿児島1(徳之島高校)

普・職選択単位数が最も多いのは高知1(高知農業高校)の15単位である。

② 職業科目のなかで選択される場合(以下、職業科目内選択とする)

職業科目内選択を設けている学校は66校(46.5%)であるが、そのうち10校がコース・類型の間で履修単位数が異なっていた。一つの学科内で全生徒が同じ職業科目内選択単位数を履修している学校数は56校(39.4%)であり、普・職選択を置く学校数よりもかなり少ない。

(4) 開講されている農業科目の種類

第7表は、現行学習指導要領の教科「農業」にある科目名(総括して農業科目とする。農業に関するその他の科目を除く)の中で、農業関係学科の教育課程表に男女共通必修科目として記載された学校数の一覧である。

農業関係学科の男女共通必修として履修させている科目を、設置している学校の多い順にあげると、農業基礎、総合実習、農業経営、栽培環境、作物、野菜、農業機械、畜産、果樹、草花となる。このうち85校(142校中の59.9%)で設置している畜産までが過半数の学校で履修されていることから、農業基礎から畜産までの8科目を農業関係学科の基本的な科目とみなすことができる。

第7表 現行学習指導要領の中で男女共通必修科目となっている科目名と学校数

科目名	学校数	科目名	学校数
農業基礎	142	草花	36
総合実習	142	食品製造	21
農業経営	120	測量	19
栽培環境	103	育林	9
作物	102	養蚕	4
野菜	90	総合農業	3
農業機械	90	造園計画	2
畜産	85	造園材料	1
果樹	42	食品化学	1

このうち「農業基礎」「総合実習」は農業に関する学科に共通に履修させる科目とされ、いわゆる必修科目として、全ての学校で履修させていることが分かる。

ところで、農業技術における第一義的な労働手段ともいえる「農業機械」は、男女共通必修としては意外に少ない。この理由は、「家庭一般」女子のみ必修の場合と関連して「男子のみ必修」とされていることにある。「家庭一般」を女子のみ必修としている場合に対応する科目を「農業機械」とする学校が39と最も多い(第8表)。単純に「農業機械」の男女共通必修を課す学校数と「家庭一般」に対応させている学校数を加えるのでは重複する場合があるので正確とはいえないが、この「家庭一般」に対応している「農業機械」を加えると設置学校数は大幅に増える。第2表の教育課程表一覧から「農業機械」を選択科目とする場合あるいは生活類型を除いて他の類型でも履修しない場合の学校数は14校である。したがって、残りの128校(全体の90.1%)では、「農業機械」が「必修」として置かれていることになる。この意味では、「農業機械」は農業関係学科の科目として代表性を十分に満たしている。なお、「農業機械」の男女差別履修の問題は、後の(8)「家庭一般」に対応する科目において検討する。

(5) 「その他の科目」について

第8表に「情報」・「生物工学」関係以外の「その他の科目」の種類と設置している学校数を示した。「その他の科目」は24種類であるが、同じ名称で設置している学校は「情報」・「生物工学」関係を除くと少ない。「情報」・「生物工学」関係科目(第10、11表)を含めると38種類になる。これらの「その他の科目」を設置している学校数は、単純合計すると100校となる。

「情報」と「生物工学」関係科目は重複している場合が多いので正確な数とはいえないが、かなり多くの学校で「その他の科目」を置いていると推察される。農業関係学科においては、「その他の科目」は、農業のもつ地域的な多様性を生かすことができる科目となり得るものである。しかし、第8表の科目名をみると、高校の所在する地域の農業を具体的に表現している科目名は「茶業」「茶業機械」「林業」などごく僅かである。したがって、科目名によって農業の地域的な多様性が表現されているのではないことを示している。

また、「その他の科目」に含まれる「情報」と「生物工学」関係の科目名が地域の多様性を表さ

第8表 「情報」・「生物工学」関係以外の「農業に関するその他の科目」の種類と設置学校数

科目名	学校数	科目名	学校数	科目名	学校数
環境制御	3	野菜園芸	1	畜産(大家畜)	1
環境緑化	3	果樹園芸	1	畜産(中小家畜)	1
園芸	2	草花園芸	1	養鶏	1
造園	2	茶業機械	1	施設工学	1
造園	2	食品	1	園芸デザイン	1
造園	2	栽培	1	農業経済Ⅰ	1
造園	2	農業工学	1	農業経済Ⅱ	1
造園	1	林業	1	生活科学	1

ないの言うにおよばない。

(6) 改訂学習指導要領に掲げられた新たな科目（以下、新設科目とする）

改訂学習指導要領の新設科目のなかで、「農業情報処理」「課題研究」「農業会計」「生物工学基礎」は、各学科共通の科目と解説されている¹⁰⁾。

第9表は新設科目について、開講科目（あるいは開講予定科目）の種類と学校数を示した。「農業情報処理」「生物工学基礎」以外は、開講科目が多くなく、「課題研究」は文部省あるいは各都道府県教育委員会の研究指定校の域をでていないように思われる。「農

第9表 平成元年改訂学習指導要領の新設科目の種類と設置学校数

新設科目名	設置数	新設科目名	設置数
農業情報処理	45	食品流通	8
生物工学基礎	52	農業会計	5
課題研究	15	食品加工	3
農業経済	11	生活園芸	1

業情報処理」「生物工学基礎」は、1985年の理産審答申をうけた文部省の「産業教育の改善に関する調査研究」グループの「情報部会」および「バイオテクノロジー部会」の報告（1987年6月15日）によって、具体的指導内容が明らかにされ、すでに各学校ではある程度の取り組みを行ってきた経緯がある。それは「その他の科目」においても「情報」「生物工学」関連科目を開講している学校数が多くなっていることに反映している。したがって、「農業情報処理」「生物工学基礎」は、これまでの「情報」「生物工学」関連科目の名称を変更した学校も多くの数を占めていると考えられる。

ところで、文部省による改訂高等学校学習指導要領の解説では、「各学科共通の科目」をこれまでの「農業基礎」「総合実習」（現行学習指導要領にある「総合農業」は廃止された）に加え、新設科目の「農業情報処理」「課題研究」「生物工学基礎」「農業会計」の4科目を掲げている。今後、農業関係学科において、これらの科目を必修科目として履修させる学校が増える予想される。

各学科共通の必修科目が多くなることは、各学科の特徴を示す他の職業科目を圧迫することになる。これは今回の教育課程の弾力的運用からすれば、逆行している。また、これらの科目のなかで、学習指導要領にいう「基礎・基本の重視」とは裏腹に、「農業会計」のように『農業経営』の一領域であった農業簿記を分離し細分化された科目や、「生物工学基礎」のように、耕種においては作物の種苗関係（農業生産技術の構成からすれば、労働対象にすぎない）のなかの専門化された分野を科目にして「必修」として課すという矛盾をはらんでいる。

以下、新設科目の「農業情報処理」と「生物工学基礎」について、開講科目の特徴と若干の問題点を指摘する。

① 情報関係科目について

第10表は情報関係科目の名称と設置学校数をまとめたものである。

情報関係科目の名称が、次に述べる生物工学に比べて多岐にわたっていることが分かる。将来的には「農業情報処理」に統一されていくのであろうが、多様な名称にみあう多様な内容であるのか

第10表 情報関連科目の種類と設置学校数

	情報関係科目	学校数
農業	農業情報処理	45
"	情報基礎	18
"	情報基礎・農業	8
"	情報処理農業	2
"	情報処理基礎	2
"	農業情報基礎	1
"	情報基礎Ⅰ	1
"	情報基礎Ⅱ	1
商業	情報処理	5
"	情報処理Ⅰ	34
"	情報処理Ⅱ	3
理数	コンピュータ	1
合計		121

第11表 生物工学関連科目の種類と設置学校数

生物工学関係科目	学校数
生物工学基礎	52
生物工学	21
生物工学Ⅰ	7
生物工学Ⅱ	2
生物工学A	1
生物工学B	1
組織培養	1
園芸生物工学	1
合計	86

は疑問の残るところである。私見では、多くの実践が基本的にはBASICによるプログラムの言語学習となっているのではないと思われる¹⁰⁾。

本稿では、農業教育における「情報」教育の内容については立ち入る余裕はないので、問題の指摘にとどめておきたい。

第一に、農業技術において処理される(すべき)情報は何であるのかということである。それは同時にコンピュータによって出来ることと出来ないことを明確にして、過大な幻想を是与えないようにすることである。

第二に、本来、自営者養成学科の基幹である農業関係学科においては、コンピュータの使用方法だけでなく、情報関係機器の導入あるいはコンピュータ制御の施設等への資本投資による農業経営の成立要件を明らかにしなければ、過剰投資になりかねない側面があるということである。

② 生物工学関係科目について

第11表は生物工学関係科目の種類と設置学校数である。

これらの必修・選択を含めた履修単位数は、コース・類型ごとに数えると最も多い単位数は11単位であった(1学科・コース等)。またそれぞれ単位数ごとに履修させている学科・コース等を多い順にみると2単位48学科・コース等、4単位26学科・コース等、5単位7学科・コース等、8単位6学科・コース等、3単位5学科・コース等となっている。多くの学科・コース等で2単位程度としているが、8単位といった大幅な単位を開講している学校もある。

ほとんどが生物工学の名称を使用している。しかし、いわゆるバイオテクと称される内容は、耕種関係では植物組織培養がほとんどであり、この内容を的確に示しているのは愛知1(安城農林高校)だけであった。

組織培養を生産体系(主に育種および種苗生産)として行うためには、多額の設備投資が伴う。たんに育成「培地」の調合や試験官内への作物組織の植え付けを行うことだけが「生物工学」ではないから、農業経営との関係を考えるときに、今後の農業技術を大きく変化させるかは疑問である。

「生物工学」によって変化するのは種苗であり、農業生産技術の構成からすれば、労働対象の変化にすぎないのであって、主要な労働手段の変化ではない。その意味では、大幅な履修単位数の増

加や生物工学を学科やコース・類型とすることは、はたして農業に将来的な展望があるといえるかという観点から慎重に検討する必要がある¹⁶⁾。

(8) 「家庭一般」に対応する科目

「家庭一般」は現行学習指導要領において、女子4単位必修、男子も選択履修してもよいことになっている¹⁶⁾。この場合、普通科においては、女子の「家庭一般」に対応して男子は「体育」を4単位履修しているとされる。今回の調査による農業関係学科の場合には、「体育」は男女とも同数の単位数となっている場合がほとんどで(体育の履修単位が男女で異なっているのは2校のみ)、「家庭一般」に対応する科目は農業科目となっていることが多い。「家庭一般」に対応する科目をまとめたのが第12表である。

前述したように「家庭一般」に対応する科目は、「農業機械」である場合が際立って多い。とこ

第12表 「家庭一般」に対応する農業科目と設置学校数

科目名	学校数	科目名	学校数	科目名	学校数
農業機械	39	作物	2	生物工学基礎	1
総合実習	10	造園計画	2	生物工学	1
栽培環境	10	家畜栄養	2	生物工学I	1
畜産	9	飼料	1	園芸	1
果樹	7	農業基礎	1	環境制御	1
測量	6	食品製造	1	環境緑化	1
農業経営	4	材料施工	1	工業科目	(2)
造園材料	4	林産加工	1	商業科目	(2)
野菜	2	情報基礎	1	体育	(2)

注1) 家庭一般4単位に対して、農業科目2単位2科目の場合にはそれぞれ一校づつとして集計した。

注2) 学校要覧、各学校教育課程表より対応科目が明らかとなるものを含む

ろで、高等学校に至るまでに機械を学ぶことができるのは、少なくとも中学校の「技術・家庭」科であるが、この教科はこれまで履修領域(系列)が男女で異なるという戦後の中学校教育の中で唯一といえる男女差別を残した特異な教科である。したがって、この教科の技術系列「機械」は男子にのみ課せられ、女子は学ぶ機会を与えられてこなかった。こうした経緯は、一般的にいわれるように女子が機械に弱いのではなく、女子が機械に関する内容を学ぶ機会を義務教育期間に一貫して与えられていないことによるものである¹⁷⁾。

日本の農業経営が政策的に小農家族経営を基調にしている実態にそくしてみると、経営の一端を担い、重要な労働力である女子が、労働手段のもっとも重要な部分である農業機械について学ぶ機会をもたないことは、経営の主体者となる自営者養成学科としては重大な弱点をもっているといえる。

「家庭一般」の履修形態に関して、「女子のみ履修」指定を明らかにしたものがほとんどである。教育課程表中※印で示した場合は、男女とも「家庭一般」を含む複数の科目から選択履修できるように読みとれる。しかし、「女子必修」が学習指導要領から規定されているのであるから、実際は「男子のみ」の選択科目となる。または、学習指導要領上の「表現」からすれば、男子に科目選択

の幅をもたせることを考慮すれば、宮崎県2のような表示が適切となる。

普・職選択科目の中に「家庭一般」を含めた選択という履修形態（「家庭一般」の欄に◎印のあるもの）が9校で見られる。この場合、「家庭一般」の選択履修が女子にあたかも可能であるかのような印象を受けるが、「家庭一般」を女子必修と規定されている以上、選択が可能なのは男子のみである。また、農業関係学科において、「家庭一般」以外にも女子に必修として家庭に関する科目を履修させている例（和歌山1、島根1、3、山口4、愛媛3、4、5、6、大分3、熊本6）がみられる。自営者養成学科として、農業経営の主体者をめざす学科であるにもかかわらず、女子に対して家庭に関する科目を必修として義務づけるのは、農業関係学科の本来の主旨にもなじまないものといえる。

女子差別撤廃条約の主旨である職業に関する男女の共通の教育課程を施すという観点からすれば、「家庭一般」の女子必修だけでなく、家庭に関する科目を女子必修とするのは、対応する科目がどのようなものであろうとも男子との間に科目選択に差別を生じることが明らかである。しかもそれが農業科目であることは看過できない問題である。

新学習指導要領では、「家庭一般」だけでなく、「生活技術」「生活一般」の3科目の中から1科目4単位をすべての生徒に履修させることとされた¹⁹⁾。どの科目をどのような履修形態で教育課程に編成されるか、今後の高校の対応が注目されるところである。

5. おわりに——現代の高等学校農業関係学科の包括的特徴——

現在のまでのところ、農業高校の教育課程に関する全国的な調査は管見の限りみあたらない。もともと高等学校の教育課程そのものについての研究が少ないうえ、農業に関する学科の教育課程は他の学科に比べて複雑で理解しにくいとされている。その理由は、第一に高等学校が教育課程の編成を各学校で行っていること（ただし、これは全ての学科にあてはまる）、第二に普通科と異なり、普通科目と職業科目とを履修させること、第三に職業科目が多いこと、第四に各科目の単位数が一定していないこと、これに関わって第五に地域農業とのかかわりが大きく科目が多様であることなどがあげられる。

しかし、各学校ごとに違う表現で記載された教育課程表を、全国の学校について横一列に並べ、比較検討する分析の方法論が未確立である以上、第一から第四までは全ての職業高校にあてはまる理由である。したがって、農業高校の教育課程が複雑となる特別の理由は、農業は地域性をもっていることに関係している。ところが今回の教育課程表調査から、第8表でみたように地域農業の多様性による反映ではないことが明らかとなった。地域農業に関しては、具体的には、「総合実習」「作物」「野菜」「畜産」「育林」「養蚕」「果樹」「草花」といった科目のなかで展開されているようで、いわゆる「その他の科目」といった科目の種類には表れていないのである。

したがって、教育課程の複雑さは科目の種類だけではなく、科目が「どのように履修されているか」という履修の形態、すなわち必修制と選択制にも起因している。

必修制については、高等学校学習指導要領¹⁹⁾は、農業関係学科のような学科では、「すべての生徒に履修させる単位数は、30単位を下らないようにする」としているが、どの教科・科目を必修にするかは学校が定めることになっている。しかし、文部省の解説によって、「各学科共通の科目」と称して現行学習指導要領の「農業基礎」「総合実習」は「必修科目」的に扱われている。実際、この2つの科目はすべての農業関係学科で履修されていた。

選択制について、佐々木享は「学習指導要領にいう選択制」について「履修方式の存在形態」を以下のように4つ挙げている。すなわち、学校がまず選択（＝開講）することをきめ、

- ① その学校全生徒に必修とする方式（生徒からみて必修、いわゆる「学校選択」）
- ② 一部の生徒（高校のある学科、あるいはコース・類型）に必修とする方式（生徒からみて必修、学科必修・コース必修）
- ③ 他の教科・科目と組み合わせたセットをつくり、そのいずれかを必修とする方式（一般的に理解されている「選択」）
- ④ 履修するかしないかを生徒に選択させる方式（生徒によって空き時間が生まれる。一日の最後の時間帯に置けば、いわゆる「ぶらさがり」である）

となる（ただし、（ ）内は著者が理解した範囲で、以下の農業関係学科の事例を念頭に補足した）²⁰⁾。

これを農業関係学科の教育課程についてみれば、①は普通科目のほとんどの科目と上記の「必修科目」的扱いがされている「農業基礎」「総合実習」である。また、男女共通必修として第7表に抽出した科目が②に該当する。③に該当するいわゆる「選択科目」は、第2表では、普・職選択科目〔●印で表した〕と職業科目内選択〔（ ）で表した〕の2つの方式があった。また、男女により履修科目が指定される場合に、コース・類型と連関させる例があり、これは②と③とを組み合わせた事例である。

さらに複雑にしているのが「家庭一般」を含めた「家庭に関する科目」である。「家庭一般」は、学習指導要領によって「女子必修」（男子も履修可）である。この場合には、男子が対応する科目を決められていると③の場合であるが、生徒の側からすれば必修となる。また、コース・類型を性差で分ける「生活」コース・類型は②の方式に性別履修が付加されたとみなされる。

④の事例は、合計総単位数に幅をもった例であるが、該当するのは1校だけであった。ただし、男女によって履修する合計総単位数が異なる事例が1校あった（時間外総合実習2単位分がいわゆる「ぶらさがり」）。

また本来②に該当するのであるが、学科内のコースで履修する合計総単位数が異なる事例は、同じ学科でありながらコースによって時間割表に空き時間が生まれることになる（多分、これも「ぶらさがり」の時間であろう）。

このように見るとに選択制が農業関係学科の教育課程を多様で、複雑にしているといえる。今回

の調査によって、現代における高等学校の農業関係学科（耕種関係における基幹的学科）の教育課程の複雑さは地域農業の多様性によるのではなく、農業関係学科が高等学校の選択制をあらゆる形態で包含しているがゆえの複雑さである。

本調査では、高等学校農業関係学科の3か年合計単位数を基礎としたが、教育課程の特徴をある程度捉えることが出来た。しかし、学年ごとの各科目の配列、職業科目の選択等を明らかにすることによって、より具体的に教育課程の特徴を分析しなければならない。これらを膨大な資料すべてについて検討するのでは時間的、労力的にかなり困難をとまなう。農業に関する学科のそれぞれがもつ代表性を実際の教育課程表の中から明らかにして、具体的な科目の配列、内容等の検討が可能となる。したがって、各学科の代表性については今後の課題としたい。

脚注および文献

- 1) ここでは、農業に関する学科を置く高等学校において行われる教育という意味において「高校の農業教育」と呼ぶことにする。これは一般的に農業高校の教育と理解されがちであるが、農業高校とは、農業に関する学科のみを置く高校と理解されるので、農業に関する学科が普通科および職業に関する学科と併置されている高校もかなり存在している（本稿でも142校中35校ある）ことから、あえて農業高校を区別することにした。
- 2) 調査回答校の中で本稿が対象とする「農業関係学科」について、文部省指定自営者養成高等学校を学校便覧から判る範囲で調べると、3学年全生徒の保護者の職業ないし従事している産業で農業（わずかでも農業を営んでいる場合を含む）の占める割合は、53.3%である。この数字を多いとみるか、少ないとみるかは判断の基準がむずかしい。各学校によって、日本標準産業分類ないし日本標準職業分類に従って記載している学校もあれば、単に農家・非農家という区分の学校もある。また「くくり募集」によって、農業関係学科以外の数を含む場合もあり、正確な数字は把握しにくい。著者の判断は、自営者養成農業高等学校の基幹的学科であることからすれば、少ない数字と考える。また、自営者養成学科において、約5割の生徒が非農家であることは、本文にもあるように、就農の意思があった（あるいは「できた」）としても、「農業に就職できない」生徒を産みだしていることになる。

自営者養成農業高校以外の学校では、保護者を標準職業分類の「農業従事者」とするのは、これよりもっと低い割合になる。
- 3) 平成元年3月 高等学校卒業者の就職状況——平成元年3月31日現在——産業教育No.465 p.64 1989.6.の資料によった。そこでは卒業者数46,851名、就職者数34,253名であった。
- 4) 昭和63年度 学校基本調査報告 文部省大臣官房調査統計課 pp.622-623
- 5) 「産業教育」では毎年5月1日現在の高等学校の学科の設置状況を掲載している。ここで対象とした農業科の改廃の資料が掲載されている「産業教育」の巻号と発行年・月は以下の通りである。

No.425(1986年3月)、No.435(1987年1月)、No.447(1988年1月)、No.457(1988年10月)

- 6) 文部省職業教育課調査「平成元年度 高等学校における学科の設置状況」産業教育 No.474 1990.2. p.61 ここで「職業に関する学科」としたのは、1989年5月1日現在、全国の高等学校の学科の種類が417学科であり、その中から「普通科」と「その他の学科」とを除いた学科数を示した。
- 7) 佐々木享 情報関連学科、電子機械科の教育課程について 技術教育研究 第34号 1989 pp.8-17
- 8) 文部省指定自営者養成高等学校とは、文部省初等中等教育局長通知「自営者養成農業高等学校 拡充整備実施要領」(昭40.5.22. 文初職第136号)によっている。
- 9) 4)の「産業教育」No.450の資料を用いた。
- 10) 具体的には、工業に関する学科、商業に関する学科、水産に関する学科、家庭に関する学科、看護に関する学科を指す。
- 11) 依田有弘 急激にふえてきた高校の学科の種類 教育(国土社)第527号 1989.10. p.p.115-120.
- 12) 前掲 7)
- 13) 文部省の職業教育課教科調査官(農業担当)である角田順三は「産業教育」No.464(1989.5.)で、農業に関する標準的学科において「共通に、原則として履修させる科目は「農業基礎」「総合実習」「課題研究」と情報に関する「農業情報基礎」の4科目である」としている。また角田は「『農業』の改善について」(産業教育No.471 1989. 11.)の中で、各学科共通の科目の区分に、上記の4科目とともに「生物工学基礎」「農業会計」を加えている。
- 14) 情報処理教育において、プログラムの言語学習だけでは、パソコンの活用能力を向上させることは難しいとして、農業技術のような場合に、計測・制御との関わりを大切にしようとする報告がある。山口郁雄 農業情報処理の効果的な指導法について 産業教育No.484 1990.12. pp.33-38
- 15) この観点はすでに専門家からも指摘されている。次の2つの論稿が参考になる。
鈴木芳夫 農業教育へのバイオテクノロジー導入による可能性と問題点 自然と教育を結ぶ 農業教育 No.35 1987.12. pp.2-7 および 川井一之 バイオテクノロジーの研究と農業 バイオテクノロジーと農業技術—農業技術の革新をめざして—農業 および園芸 第60巻第1～2号 別冊 1989. pp.1-4
- 16) 現行高等学校学習指導要領では、教科「家庭」の第3款に「家庭一般」についての取り扱いが書かれている。その中で、「(3)男子が選択して履修する場合には、第1章第7款の4に定める内容について特に配慮し、適切な指導をするものとする」とされている。
- 17) 1990年改訂の中学校学習指導要領「技術・家庭」では、「木材加工」「電気」「家庭生活」「食物」の4領域をすべての生徒に履修させる必修としている。しかし、ここでも「機械」領域は必修と

はなっていないのであるから、女子が機械に関する内容を学ぶ機会は相変わらず少ない結果となる。

- 18) 中等教育資料 No.551 1989.4. 職業教育課教科調査官(家庭科担当)の河野公子は教科「家庭」についての解説の中で、「(2)履修方法の改善」について次のように書いている。①現行の女子のみ「家庭一般」4単位必修の扱いを改め、今回から男子も必修となり、すべての生徒が履修する教科(ママ)となる。②生徒の多様な能力・適性、興味・関心等に応じることができるようにするため、「家庭一般」のほかに、新しい科目として「生活技術」及び「生活一般」を設け、これらのうち1科目4単位をすべての生徒に選択履修させるようにする。(以下、略)
- 19) 1973年改訂高等学校学習指導要領および1989年改訂高等学校学習指導要領の両方を意味している。
- 20) 佐々木享 必修制、選択制について 名古屋大学教育学部紀要 -教育学科- 第35巻 1989. 3. pp.209-223.

謝辞：本研究に取り組むにあたって、全国の農業に関する学科をもつ高等学校の教育課程表を調査する際に、学校所在地等に関する資料を提供していただいた国立教育研究所主任研究員名取一好氏に謝意を表します。

第1表 農業関係学科設置高等学校一覽(1990年調査)

北海道

1 名寄農業高等学校	B型	農業科
2 大野農業高等学校	B型	農業科
3 帯広農業高等学校	B型	農業科
4 更別農業高等学校		農業科
5 岩見沢農業高等学校	B型	農業科
6 富良野農業高等学校		農業科
7 遠別農業高等学校		農業・生活科
8 深川農業高等学校		農業・生活科
9 剣淵高等学校		農業・生活科
10 檜山北高等学校		農業・生活科

青森県

1 三本木農業高等学校	A型	農業科
2 五所川原農林高等学校	A型	農業科
3 柏木農業高等学校		農業科
4 名久井農業高等学校		農業科

秋田県

1 鷹巣農林高等学校		農業科
2 能代農業高等学校	A型	農業科
3 西目高等学校	▽	農業科
4 大曲農業高等学校		農業科
5 金足農業高等学校		農業科
6 増田高等学校	▼	農業科

岩手県

1 盛岡農業高等学校	A型	農業科
2 水沢農業高等学校	B型	農業科
3 岩谷堂農林高等学校		農林科
4 一関農業高等学校		農業科
5 一戸高等学校	▼	農業科

山形県

1 上山農業高等学校	▼ B型	農業園芸科
2 新庄農業高等学校	B型	総合農業科

宮城県

1 柴田農林高等学校		農業科
2 小牛田農林高等学校		農業科
3 河南高等学校	▼	農業科
4 栗原農業高等学校		農業科
5 宮城農業高等学校	A型	農業科
6 伊具高等学校	▽	農業科

群馬県

1 富岡実業高等学校	▽	農業科
2 安中実業高等学校	▽	農業科
3 大泉高等学校	▼▽	農業科
4 中之条高等学校	▼	農業科

茨城県

1 水戸農業高等学校	A型	農業科
2 真壁高等学校	(注)	農業科

栃木県

1 栃木農業高等学校		農業科
2 矢板高等学校		農業科
3 宇都宮農業高等学校		農業科
4 真岡農業高等学校		農業経営科
5 佐野高等学校	▼	農業科
6 那須拓陽高等学校		農業経営科

千葉県

1 山武農業高等学校		農業科
2 君津農林高等学校		農業科
3 茂原農業高等学校		農業科
4 多古高等学校	▼	農業科

東京都

1 三宅島高等学校	▼	農業科
2 大島高等学校	▼	農業科

山梨県

1 県立農林高等学校		農業科
------------	--	-----

新潟県

1 高田農業高等学校		農業科
2 柏崎農業高等学校		農業科
3 佐渡農業高等学校		農業科
4 長岡農業高等学校		農業科
5 十日町実業高等学校		農業科
6 加茂農林高等学校		農業科

長野県

1 更級農業高等学校		農業科
2 下高井農林高等学校		農業科
3 下伊那農業高等学校		農業科
4 丸子実業高等学校		農業科
5 塩尻高等学校	▼	農業科

静岡県

1 磐田農業高等学校		農業科
2 小笠農業高等学校	B型	茶業科
3 農業経営高等学校	A型	生物生産科

愛知県

1 安城農林高等学校	B型	農業科
2 佐屋高等学校		農業科

岐阜県

1 大垣農業高等学校	B型	農業経営科
2 加茂農林高等学校		農業科
3 斐太農林高等学校		農業科

富山県

1 小杉高等学校	▼	農業科学科
2 福野高等学校	▼	農業科学科
3 有磯高等学校	▽	農業科学科
4 入善高等学校	▼	農業科

石川県					
1	七尾農業高等学校		農産園芸科		
2	松任農業高等学校		農業畜産科		
福井県					
1	福井農林高等学校		農業科		
2	坂井農業高等学校		農業科		
3	若狭東高等学校	▽▽	農業科		
滋賀県					
1	長浜農業高等学校	B型	農業経営科		
2	甲南高等学校	▽▽	農林技術科		
3	伊香高等学校	▽	農業・生活科		
4	湖南農業高等学校		農業科		
5	八日市南高等学校		農業科		
三重県					
1	四日市農芸高等学校		農業科		
2	上野農業高等学校		農産園芸科		
奈良県					
1	御所東高等学校		農業科		
2	田原本農業高等学校		農業科		
和歌山県					
1	紀北農芸高等学校		農業経営科		
大阪府					
1	農芸高等学校		ハイテク農芸科		
京都府					
1	桂高等学校	▽	農業科		
兵庫県					
1	佐用高等学校	▽	農業科		
2	播磨農業高等学校	A型	農業経営科		
3	篠山産業高等学校 東雲分校		農業科		
4	氷上高等学校		営農科		
5	農業高等学校		農業科		
岡山県					
1	新見北高等学校		農畜産科		
2	高松農業高等学校		農業科		
3	興陽高等学校		農業科		
4	久世高等学校		農業科		
5	川上農業高等学校		農業科		
6	瀬戸南高等学校		農業科		
鳥取県					
1	倉吉農業高等学校	B型	農林科		
島根県					
1	矢上高等学校	▽	農業科		
2	松江農林高等学校		農業科		
3	出雲農林高等学校		農業科		
広島県					
1	油木高等学校	▽	農業経営科		
山口県					
1	日置農業高等学校		農業科		
2	山口農業高等学校		農業科		
3	奈古高等学校		農業科		
4	徳佐高等学校	▽	農業科		
高知県					
1	高知農業高等学校		農業経営科		
2	幡多農業高等学校		農産科学科		
香川県					
1	農業経営高等学校	B型	農業経営科		
愛媛県					
1	西条農業高等学校		農業科		
2	大洲農業高等学校		農業科		
3	宇和高等学校	▽	農業経営科		
4	今治南高等学校	▽	農業科		
5	丹原高等学校	▽	農業科		
6	北宇和高等学校	▽	農業科		
福岡県					
1	豊前農業高等学校		農業技術科		
2	嘉穂農業高等学校		農業技術科		
3	朝羽高等学校	▽	農業科		
佐賀県					
1	佐賀農芸高等学校		農業科		
長崎県					
1	島原農業高等学校		農業科		
2	諫早農業高等学校		農業科		
3	北松農業高等学校		農業経営科		
4	大村園芸高等学校		農業科		
大分県					
1	宇佐農業高等学校		農業科		
2	山香農業高等学校	B型	農業科		
3	国東農工高等学校	▽	農業科		
熊本県					
1	熊本農業高等学校		農業科		
2	菊池農業高等学校	A型	農業科		
3	天草農業高等学校		農業科		
4	河浦高等学校		農業・園芸科		
5	芦北高等学校	▽	農業科		
宮崎県					
1	門川農業高等学校		農業科		
2	都城農業高等学校		農業科		
3	本庄高等学校	▽	農業科		
鹿児島県					
1	徳之島農業高等学校		農業科		
沖縄県					
1	南部農林高等学校		農業科		

1990(平成2)年度 農業関係学科教育課程表 凡例

1. 全国の農業に関する学科を置く高等学校411校(分校を含む)について、学校便覧ないし教育課程表の送付を依頼し、211校から回答を得た。本表は、回答を得た学校の中の農業関係学科についてまとめたものである。なお、農業関係学科とは、次の17学科をいう。

農業科、総合農業科、農林科、営農科、農業園芸科、農業経営科、ハイテク農芸科、
農業・園芸科、農業畜産科、農林技術科、農畜産科、農産科学科、農業技術科、茶業科、
農産園芸科、農業科学科、農業・生活科

(ただし、生物生産科は静岡県3のみ記載したので、上記17学科には含まれていない)

2. この表では、1990年度入学の生徒を対象とした全日制の教育課程表について、三年間に開講される科目を合計単位としてまとめて記載したものである。したがって、各学校の教育課程表において、学科改編や教育課程の改訂が完成年度に至らないために第一学年のみ、あるいは第二、三学年のみしか記入していない場合には、本表には記載していない。

3. 定時制課程、通信制課程、専攻科、農業特別専攻科については記載していない。

4. 各学校の教育課程表に学科内のコース・類型が明記されている場合には、学科欄に学科名とそのコース・類型名を記載した。

5. 学校要覧・教育課程表よりコース・類型は存在していることが判明しても、教育課程表にコース・類型名が具体的に明記されていない場合には、コース・類型の該当科目の単位の前に♣印をつけた。

ただし、♣印の科目は、それぞれのコース・類型では必修扱いとなるので、「職業科目内選択」欄には記載していない。

6. 職業科目単位計の欄に\$印がある岐阜2は、合計総単位数と各欄の単位数の合計が合わないが、要覧にある教育課程表のまま記載した。

7. 選択科目については、普通科目と職業に関する科目(以下、職業科目)との組み合わせから選択する場合(普・職選択科目)には、◎印をつけた。ただし、◎印の内、「情報」関連目を除く工業・商業・家庭に関する科目は、一括して合計単位数を記載してあるので各科目欄の◎印を合計すると、普・職選択科目欄の単位数より多くなることもある。

たとえば普通科目1科目と職業科目2科目以上から2単位を選択する場合などは、各科目欄の◎印の単位数を合計すると普・職選択科目欄の単位数より多くなる。

8. 普・職選択科目欄にある■印(滋賀2のみ)は自由単位とのみ記載されていて、科目、選択の形態と内容が不明であった。

9. 職業科目のなかでの選択科目(職業科目内選択科目)については、科目欄に()をつけて記載した。この単位数は「職業科目単位計」の内数である。

10. 「職業科目内選択」欄にある*印(栃木6)では、作物と畜産の選択の組み合わせが、次のようになっていた。2年次の5単位が作物3単位と畜産2単位またはその逆の組み合わせ、3年次6

単位は作物または畜産のどちらか一方を選択する。合わせると11単位の選択となる。

11. 「教科単位合計」とは、本表の普通科目単位計、職業科目単位計、普・職選択科目の単位を合計したものである（職業科目内選択は職業科目単位計に含まれている）。
12. 合計総単位数は、特別活動及び各教科以外の教育活動を含めた単位数である。
13. 科目名の欄は、上から順に昭和53(1978)年改訂高等学校学習指導要領にある農業に関する科目の欄、次いで平成元(1989)年改訂高等学校学習指導要領で新たに加わった科目の欄、第三番目に「農業に関するその他の科目」の欄、第四番目に「工業・商業・水産に関する科目」の欄、最後に「家庭に関する科目」の欄に分類した。
14. 昭和53(1978)年改訂高等学校学習指導要領にある科目名のうち、平成元(1989)年改訂で廃止された科目名（具体的には「総合農業」「農家経営」）には●印をつけた。
また、平成元年改訂で名称変更された科目には、新旧の対応する科目名の前に△印を付け、新設された科目には、◆印をつけた。
15. 科目名の欄の中で、●・△印の科目を除いた他の科目は、それぞれの高等学校に該当する科目がない場合には、科目欄から省略してある。
16. 総合実習について、各学校の教育課程表の記載方法が異なっているため、以下のように整理して記載した。
 - ①総合実習が「時間割内」「時間割外」を区別していない場合には、すべて「総合実習」欄に記載した。
 - ②「時間割内」と「時間割外」が明記され単位数の配分が明らかな場合には、時間割内に実施されるものは「総合実習」欄に、週時間割外は「総合実習（外）」の欄に区別して記載した。なお、「総合実習（外）」欄に〔 〕で示したものは、「総合実習」の単位数の内数である。
 - ③各学校の教育課程表に「時間割外」を明記していても、単位数が総合実習の内数か外数か明らかにされていない場合には、「時間割外」をすべて外数として扱い、「総合実習（外）」欄に表示した。
15. それぞれの学校で開講している「農業に関するその他科目」（下から3番目の欄）の名称は、すべて記載するようにした。すなわち、生物工学、生物工学Ⅰ・Ⅱのような場合には、それぞれの科目名を個別に記入してある。
16. 職業科目のうち、b印は二つ以上の科目を合わせた単位数を示す。すなわち、野菜b4、b果樹b4とある場合には、野菜と果樹合わせて4単位であることを示す。
17. 男女別履修が明記されている場合には、単位数の後に男子にm印、女子にf印を付けた。
たとえば、同一科目内に男女共通履修と男女別履修がある場合には、|4m 8|と表示し、男子は12単位、女子は8単位を履修することを示している。
18. 「工業・商業・水産に関する科目」の欄では、「情報」に関する科目名のみ個別に記載し、他の科目は「工業関係科目」「商業関係科目」「水産関係科目」と一括して合計単位数を表示した。

19. 「情報」に関する科目の中で、栃木県2にある「コンピュータ」は理数科目とされているものである。
20. 「家庭一般」の扱いは各学校により異なっているが、ここでは「普通科目」には含めていない。したがって、「家庭一般」の単位数は「職業科目単位計」に含まれる。したがって「家庭一般」と職業科目との選択は、「普・職選択科目」欄に記載していない。
21. 「家庭一般」は、昭和53年改訂学習指導要領で女子必修、男子の選択履修が可となっている。したがって、各学校によって表示方法が異なっているので、以下のように区別して記載した。
- 男女別の履修が明記されていない場合
- ①他の職業科目との選択科目となってい場合（すなわち男子が選択してもよいと解釈される場合）は、対応する職業関係科目に※印を付けた。ただし、表中、宮崎県1の場合は、「家庭一般」が女子必修、男子が家庭一般と栽培環境の選択が明記されていたことを示している。
- ②他の職業科目との対応が不明の場合（男女とも必修として扱われている場合が考えられる）「家庭一般」の欄に単位数のみ記入し、fの符合をつけていない。
22. また、三重県1の「家庭一般」の欄にある◇印は、女子が同一学年において総人数の10%程度であれば履習させるという条件がつけられている場合である。この場合、男子はどの科目を履習させるのか、明らかでない。

第2表 1990年度入学生徒を対象とする農業関係学科の教育課程表一覧

	北海道										青森県		
	1 農業科	2 農業科	3 農業科	4 農業科	5 農業科	6 農業科	7 農業・生活科	8 農業・生活科	9 農業・生活科	10 農業・生活科	1 農業科	2 農業科	3 農業科
普通科目単位計	48	53	54	50	50	49	47	45	48m46f	53	48	50	50
職業科目単位計	44	42	45	42	46	47	44	48	43m45f	40	44	45	49
普・職選択科目	◎2						◎2		◎2		◎4	◎4	
職業科目内選択				(2)	(2)								
教科単位合計	94	95	99	92	96	96	93	93	93	93	96	99	99
合計総単位数	103	104	105	102	108	108	105	102	105	102	114	109	108
農業基礎	3	4	4	3	4	4	3	3	3	3	5	3	4
総合実習	10	8	3	6	12	9	11	11	11	11	8	4	4
総合実習(外)	4		6	3	[6]	3		[3]	[3]		12	6	6
作物	8	8	9	6(2)	7(2)	5	4m	5m	6m	5m	6	6◎4	3
野菜	4				4(2)	6	2m	4	2	3	6	2	5
畜産		8	7	4(2)	2(2)	3	4m	4m	4m	4m	◎2	2◎4	4m
食品製造	◎2				(2)		2	2f		2f		◎4	
栽培環境	3	4	5	3	4	5	2m	5m	4m	2m	6	5	3
農業機械	3	4	3	5	4	4	2m	6m	4m	4m	2	2◎4*2	4
農業経営	5	4	8	6	7	6	2m	5m	◎2 4m	6m	5	6◎4	5
果樹					(2)						◎2	*2	5
草花					2(2)			4	2f	2			
△家畜栄養飼料													
△造園材料													
△材料施工													
●農家経営								5f	4f				
●総合農業													
◆農業情報処理	2			2					2				2
◆生物学基礎	2			2			2				4	◎4	4
◆食品流通							4f					3	
◆生活園芸													
△飼料													
△造園緑化材料													
△農業土木施工													
情報基礎・農業											2	2	
商業関係科目							4◎2			3f			
情報処理						2							
情報処理I	◎2	2					6	1					
家庭一般							4f	4f	4f	4f		*4	4f
家庭関係科目							8f	14f	14f	12f			

	青森県 4 農業科	秋田県 1 農業科	2 農業科	3 農業科	4 農業科	5 農業科	6 農業科	岩手県 1 農業科	2 農業科	3 農業科 農業機械 一ス	4 農業科 林産技 術一ス	5 農業科
普通科目単位計	46	50	51	51	48	55	46	52	51	56	54	50
職業科目単位計	46	47	46	45	46	44	44	44	49	47	49	53
普・職選択科目	◎4		◎2		◎4	(2)	◎4	◎6	◎2			◎2 (8)
職業科目内選択 教科単位合計	96	97	99	96	98	99	96	102	102	102	102	105
合計総単位数	102	106	108	105	108	108	105	108	108	108	108	111
農業基礎	4	3	4	2	3	4	2m 2	4	4	3	3	4
総合実習	12	12	9	13	4m 8	10	2m 9	12	6	6	6	12
総合実習(外)	[6]	4	6	[3]	6	6	3		6	6	6	6
作物	4 ◎4	4	2	2	5	2	4	15	7 ♣4			2 (8)
野菜	5 ◎4	2	2	2	2	2 (2)	2		♣4	5		(8)
畜産	2	4	2	2	2	2	4		◎2 ♣4			2 (8)
測量							◎2		◎2			4 (4)
育苗										2	4	
環境	3	4m	3	4	4	5	4	3			6	3
栽培	2m	2	*4	*4	4	4	4	2 ◎3	2m 2 ◎2			4m
農業機械	5	2	6	4	4	5	4	4 ◎3	2 ◎2	*2		5
農業経営	2m 3 ◎4	4		2	◎2	(2)	4 ◎2	4 ◎3	3 ♣4			(8)
果樹		4		2		(2)	(2)		♣4			2 (4)
草花		2		2		(2)			♣4			(8)
林産加工											*4	
林業経営											2	
△家畜栄養飼料									◎2			
△造園材料												
△材料施工												
●農家経営												
●総合農業												
◆農業情報処理			4	2	2 ◎2	1	2					
◆生物学基礎	2	3		6	2	1	2					
△飼料												
△造園緑化材料												
△農業土木施工												
情報基礎・農業 生物学 I	2		4					2	4	3 *2	3	3
工業関係科目 商業関係科目 情報処理 I		3	◎2					2	4m 3 ◎2 4 ◎2	12 4	11 4	6 2
家庭一般 家庭関係科目	4f	4f	*4	*4	4f		4f		4f ◎2	*4	*4	4f

	山形県	2			宮城県	2		3	4		5		
	農業園芸科	総合農業科			農業科	農業科	園芸科	農業科	農業・園芸ハイオ	畜産・ハイオ	作物	畜産	生物学
		I類(自営)	II類(進学)	III類(就職)		コース	コース		類型	類型	類型	類型	類型
普通科目単位計	47	46	54	48	54	48	48	54	48	48	52	52	52
職業科目単位計	55	56	48	54	42	41	41	39	33	33	43	43	43
普・職選択科目	(8)				◎3	◎7	◎7		◎12	◎12	◎2	◎2	◎2
職業科目内選択	(8)				(2)								
教科単位合計	102	102	102	102	99	96	96	93	93	93	97	97	97
合計総単位数	108	120	120	120	108	105	105	105	105	105	109	109	109
農業基礎	4	6	6	6	4	4	4	6	3	3	6	6	6
総合実習	12	8	8	8	12	11	11	9	2	2	17	17	17
総合実習(外)	6	6	6	6	6	6	6		3	3	[7]	[7]	[7]
作物	(8)				4	4	2	4			4	4	4
野菜	(8)				2		2	4			2m	2m	2m
畜産						4		4		12		4	
食品製造	4	3											
栽培環境	3	3	3	3	2	2	2	2			2	2	2
農業機械	*4	4m	4m	4m	2	3	3	2	◎3	◎3	2m	2m	2m
農業経営	6	4	4	4	2	3	3	4	◎4	◎4	4	4	4
果樹	(6)				2		2						
草花	(8)						2	4					
△家畜栄養飼料													
△造園材料													
△材料施工													
●農家経営													
●総合農業		19	17	17									
◆農業情報処理		3		3	2 (2)						2	2	2
◆生物学基礎					2 (2)						2	2	6
◆農業経済									◎3	◎3			
△飼料													
△造園緑化材料													
△農業土木施工													
情報基礎・農業	4					2	2		1	1			
生物学	4					2 ◎3	2 ◎3						
生物学Ⅰ									4	4			
生物学Ⅱ									4	4			
園芸									12				
工業関係科目				3					4m	4m	◎2	◎2	◎2
商業関係科目						◎4	◎4				2 ◎2	2 ◎2	2 ◎2
情報処理					◎3	◎3	◎3				◎2	◎2	◎2
情報処理Ⅰ									◎2	◎2	◎2	◎2	◎2
家庭一般	*4	4f	4f	4f					4f	4f	4f	4f	4f

	宮城県	群馬県				茨城県		栃木県		水田	2 農業科			経営
	6 農業科	1 農業科	2 農業科	3 農業科	4 農業科	1 農業科	2 農業科	1 農業科	A		B	農業園芸	経営	
普通科目単位計	55	48	47	49	47	52	48	48	48	48	48	48	48	54
職業科目単位計	39	49	55	49	51	44	45	43	43	46	46	46	40	
普・職選択科目	◎2	◎2		◎4	◎2	◎6	◎6	◎5	◎5	◎2	◎2	◎2	◎2	
職業科目内選択	(2)	(2)	(3)			(4)								
教科単位合計	96	99	102	102	100	102	99	96	96	96	96	96	96	
合計総単位数	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	
農業基礎	4	4	4	3	4	6	5	4	4	4	4	4	4	
総合実習	5	12	13	14	15	13	6	2	2	6	6	6	7	
総合実習(外)	6	[2]				6	6	6	6	6	6	6	6	
作物	2	4	4 (3)	5	3	2	4 ◎4	3 ◎5	3	10	4	4	2	
野菜	2 (2)	4	4 (3)	3	2	(2)	4 ◎4	3 ◎5	3	2m 2	2m 2	2m 2	2m	
畜産	2 (2)	4	2m 2 (3)	5	5		2 ◎4	4 ◎5	4	2m 2	2m 2	2m 8	2m	
食品製造				◎2										
測量	2m ◎2	◎2		◎2	◎2		2		◎5					
育苗		2			2									
造園計画									2m ◎5					
栽培環境	2	3	2	3	2m 2	3	4	4	4	2	2	2	2	
農業機械	2m	3	3	2	2	2 ◎3	2	2	2	2	2	2	2	
農業経営	4	5	4	4	2m 2	4 ◎3	4	8	8	4	4	4	9	
養蚕	2 (2)	2	3 (3)		2									
果樹		(2)	2m 2 (3)	2m	2	2 (2)	4	3 ◎5	3		2			
草花	2 (2) ◎2	(2)	3 (3)	2	2	(2)	◎2				4			
△家畜栄養飼料								2m						
△造園材料				2m				2m	2m					
△材料施工														
●農家経営														
●総合農業														
◆農業情報処理	2	4 ◎2	2	2	2									
◆生物工学基礎	◎2	◎2	2	2	2 ◎2									
△飼料														
△造園緑化材料														
△農業土木施工														
生物工学						(2) ◎3								
商業関係科目	◎6					◎3				◎2	◎2	◎2	◎2	
情報処理 I						(2)	2							
コンピュータ I										4	4	4	4	
家庭一般	4f		4f	4f	4f			4f	4f	4f	4f	4f	4f	
家庭関係科目	◎4													

	栃木県 2 農業科 農業機械 コース	3 農業科	4 農業 経営科	5 農業科	6 農業 経営科	千葉県 1 農業科	2 農業科	3 農業科	4 農業科	東京都 1 農業科	2 農林科	山梨県 1 農業科 農業機械 コース	2 農業 経営 コース
普通科目単位計	50	47	49	44	54	48	50	48	47	50	59	51	51
職業科目単位計	44	45	39	46	45	48	46	48	47	38	34~40	50	45
普・職選択科目	◎2	◎4	◎8	(4)	(4)	*(11)	(6)	(8)	◎2	◎8	◎3	◎3	◎3
職業科目内選択			(4)	(4)	*(11)	(2)	(6)	(8)		(8)	(6)		
教科単位合計	96	96	96	90	99	96	96	96	96	96	96~102	101	99
合計総単位数	108	108	108	記載なし	108	108	102	102	105	102	102~108	107	105
農業基礎	4	4	3	6	4	4	4	4	4	8	6 ◎3	4	4
総合実習	4m 5	4m 6		4	7	6	14	2 ※4	4m 6		6	11	6
総合実習(外)	6	6	6		6	6		6	6	6	2 (4)	6	
作物	4	5 ◎4	3	(4)	(11)	6 (2)	5	6 (8)	6				4
野菜	2 ◎4	4	4	5 (4)	(4)	2 (2)	2 (6)	4 (8)		4 ◎8(8)	2 ♣10		3
畜産	4 ◎4	◎4	◎4	(4)	(11)	3 (2)		2	6	4 (8)	2 ♣10		2
食品製造				2 (4)						4 ◎8(8)			
測量				3									
育林		3	3	4	4	4	4	3	4		4		
栽培環境		2	2 ◎2	2m	※2	3	3	5	3			10	◎3
農業機械	7	4 ◎4	7 ◎2	5	5	4	4	4 (8)	6				2
農業経営		3 ◎4	◎4(2)	5 (4)	※2	2 (2)	(6)	(8)					10
果樹		◎4	◎4(2)	4 (4)	※2	2 (2)	(6)	(8)	◎2	4 ◎8(8)	2 ♣10		3
草花													
△家畜栄養飼料				2m (4)	※2	2							
△造園材料													
△材料施工													
●農家経営								(8)					
●総合農業													
◆農業情報処理			2 (4)		4		2						
◆課題研究			5										
◆生物学基礎			◎6(2)				2	(8)					
◆農業会計			◎2										
△飼料													
△造園緑化材料													
△農業土木施工													
情報基礎・農業						2		(8)					
農業情報基礎									2				
情報基礎		2								◎8			3
生物学						(2)							
造園								(8)					
酪農								(8)					
豚								(8)					
鶏								(8)					
工業関係科目	10											19	
商業関係科目	◎2												2
情報処理											(2)		6
コンピュータ	4												
家庭一般	4f	4f	◎4	4f	※4			※4	4f		◎3		

	新潟県						長野県					静岡県 1 農業科	
	1 農業科	2 農業科	3 農業科	4 農業科	5 農業科	6 農業科	1 農業科 生産 工学 コース	2 農業科 流通 経済 コース	3 農業科 農業 経済 コース	4 農業科	5 農業科		
普通科目単位計	52	50	57	52	49	52	54	54	60	55	46	52	48
職業科目単位計	41	42	35	44	41	40	41	41	41	43	45	43	42
普・職選択科目	◎3	◎4	◎4		◎3	◎4	◎4	◎4		◎4	◎5	◎4	◎6
職業科目内選択	(4)	(2)	(7)						(8)	(7)	(7)	(7)	(8)
教科単位合計	96	96	96	96	93	96	99	99	101	102	96	99	96
合計総単位数	99	102	102	102	96	102	105	105	107	108	105	105	105
農業基礎	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
総合実習	9	11	9	4m 7	9	5	9	9	9	4	4	6	9
総合実習(外)			[3]	[3]			6	6		5	6	6	6
作物	4 (4)	4 2m	3 (4)	4	7	5 ◎4			2m(6)	2	3	2	(5)
野菜	2 (4)	2 (2)		4	4	2 ◎4			3 (6)	b 4		2	
畜産	2m1(4)	2(2)	2 (4)	2	5	2			4 (6)	2	5 (4)	2	(5)
食品製造			◎4			2			2 (2)				2 ◎3(3)
測量		2	*2(3)	2	*2	2	4		2 (2)	2	(3)	(7)	
造園計画											◎2		(3)
栽培環境	2		*2		3	3	◎4	◎4	3	2	4	2	(3)
農業機械	2m1(4)	2 2m	*2	4	2 ◎3	3 ◎4	6		2 2m	2	4	2(7) ◎2	4(3)
農業経営	4 (4)	5	4	5	5	5		2	4	2 ◎3	2 ◎2	2m	4 (3)
果樹	2 (4)	◎4	(3)	2	2	2 ◎4			2 (6)	b 4		2m	(3)
草花	2 (4)	◎4		2					(6)			2	
△家畜栄養飼料													(3)
△造園材料												2m	
△材料施工			(4)										
●農家経営													
●総合農業													
◆農業情報処理	2	2	◎4	2		3						2	2
◆生物学基礎	2	2		2		◎4							
◆農業経済								4		5			
◆農業会計								4		2			
◆食品流通													
△飼料													
△造園緑化材料													
△農業土木施工													
情報基礎							2	2	(2)		(3)		3
生物学										◎4			
農業											2 (4)		
野菜園芸											2 (4)		
果樹園芸											2 (4)		
草花園芸											2 (4)		
工業関係科目							8						
商業関係科目			(4f)					8		4		◎6	◎3
情報処理									(2)	4 ◎4			◎3
情報処理 I			◎4				2	2					◎3
家庭一般	4f	4f	*4	4f	*2		◎4	◎4	4f	◎4		4f	
家庭関係科目	◎3		*2						(2)			◎4	

	静岡県		愛知県		岐阜県		富山県		2		2	
	2 茶業科	3 生物生産科 農業経営 工学コース	1 農産科 生物学 工学コース	1 農産科	2 農産科	1 農産科 経営科	2 農産科	3 農産科	1 農産科 園芸・バイオ ハイコース	1 農産科 経済・情報 コース	2 農産科 生産技術	2 農産科 農業経済
普通科目単位計	49	47	50	42	44	51	48	52	45	45	50	50
職業科目単位計	44	46	43	41	48	49	41	44	48	48	45	45
普・職選択科目	◎6	◎6	◎6	◎7	◎5	◎2	◎4		◎6	◎6	◎4	◎4
職業科目内選択		(3)		(8)	(2)	(3)	(3)	(2)			(7)	
教科科目合計	99	99	99	90	97	102	96	96	99	99	99	99
合計総単位数	105	105	105	102	108	108	108	108	108	108	108	108
農業基礎	3	4	4	4	6	4	4	4	4	4	4	4
総合実習	6		4	14	12	12	10	10	10	10	6	6
総合実習(外)	6	6	6	[7]	6	6	6	6	6	6	6	6
作物				(8)	4	4 (3)	2	2	4	4	2 ◎2	2 ◎2
野菜				(8)	(2)	5 (3)	2 (3)	3	2	◎3	(5)	
畜産		(3)			4		5		◎3	(5)	(5)	
食品製造		◎3	◎3					2				
測量				◎2				(2)		2		
栽培環境	4	(3)	4	4	2 2m	2		3	◎3		4m	4m
農業機械	5 ♣3	2	2	2m	2 2m	2 2m		2	4m	4m		
農業経営		4	2	6	◎3	5		4	2	4	2	2
養蚕							◎2					
果樹				(6)	◎2		2 (3)	2	2		(2)	
草花				(6)	◎2	◎2		2	2		(5)	
食品化学	2 ♣3											
林産加工		◎3	◎3									
△家畜栄養飼料											(2)	
△造園材料												
△材料施工												
●農家経営												
●総合農業		12										
◆農業情報処理				◎3							4	4
◆課題研究	2	2	2								4	4
◆生物工学基礎	2	2 2m	2									
◆農業経済				3						2		
◆農業会計				◎2								5
◆食品流通	3						4 ※3	(2)			(2)	2 ◎2
◆食品加工												
△飼料												
△造園緑化材料												
△農業土木施工												
情報基礎	2	2	2			2 2m	2 ◎2	2			4	4
生物工学			11	(4)					6	2		
組織培養											2 ◎2	
環境制御		2m	4m									
環境緑化		◎3	◎3	2m								
茶業	7											
茶業機械	2 ♣3											
商業関係科目	◎3	5 ◎6	2 ◎6	4					6 ◎3			
情報処理 I		◎3	◎3						4	6		
家庭一般		4f	4f	4f	4f	4f	※3		4f	4f	4f	4f
家庭関係科目		◎6	◎6									

	富山県		4 農業科	石川県		福井県		2 農業科	3 農業科		滋賀県		
	3 農業科 I類	3 農業科 II類		1 農 産 園 芸 科	2 農 畜 産 科	1 農 業 科 專 門 コ ー ス	1 農 業 科 教 養 コ ー ス		3 農 業 科 栽 培 コ ー ス	3 農 業 科 飼 育 コ ー ス	1 農 業 經 營 科	2 農 林 技 術 科 生 産 コ ー ス	2 農 林 技 術 科 林 業 コ ー ス
普通科目単位計	53	53	53	48	51	50	57	51	51	51	49	49	49
職業科目単位計	41	41	49	42	51	52	45	42	42	42	47	48	48
普・職選択科目	◎5	◎5		◎9				◎6	◎6	◎6	◎6	■8	■8
職業科目内選択	(7)	(7)		(6)	(3)	(6)	(2)				(4)		
教科単位合計	99	99	102	99	102	102	102	99	99	99	102	105	105
合計総単位数	108	108	111	105	108	108	108	108	105	105	108	111	111
農業基礎	4	4	6	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
総合実習	8	8	6	11	16	8	8	13	8	8	10	8	8
総合実習(外)	6	6	6		[6]	6	6	5	[6]	[6]	6	6	6
作物	◎2	◎2	4	◎4m	4 (3)	3 (2)	3 (2)	4	4	4	2	2	
野菜	◎3(2)		4	2 (6)	2 (3)	2 (2)	2 (2)		4	2	3		
畜産	◎2	◎2	2		4 (3)	2 (2)	2 (2)		2	7	2 (2)	2	
食品製造	(3)	(3)		2 ◎3	2					8			
測量			2m										4
林育													6
栽培環境			4	2	4	2 2m	2 2m	2	◎2	3	4	2	2
農業機械	◎2	◎2	2m	4m	4m	2(2) 2m	2 2m	4m	◎2	◎2*4	2 ◎6	2	2
農業経営	5	5	5	3	4	2	2	2	◎2	5	5	2	
果樹				2 (6)					2	3	(2)		
草花	◎3(2)		2	2 (6)					2	3	3	2	
応用微生物	2								◎4	◎4			
林業土木													2
林産加工													4
造園施工・管理											◎6		
△家畜栄養飼料								◎4					
△造園材料													
△材料施工													
●農家経営													
●総合農業													
◆農業情報処理				2 ◎2m	4							2	2
◆課題研究												2	2
◆生物工学基礎		2		2		4	4	2				2	2
◆農業経済						3						2	
◆農業会計												2	2
◆食品流通											4		
△飼料													
△造園緑化材料													
△農業土木施工													
情報基礎								2	2	2	(4)		
生物工学	4 (3)	4	2			(2)						6	
食品													
茶業													
工業関係科目									◎6	◎6			
商業関係科目	(4)	◎3(4)				2 (4)	2		◎2	◎2			
情報処理 I	5	5 (3)	4			2	2		◎2	◎2	◎6		
家庭一般			4f	4f	4f	4f	4f	4f	*4	*4		4	4
家庭関係科目				◎6f				◎4	◎2	◎2			

	滋賀県 ³		4 農業科	5 農業科	三重県		奈良県				和歌山	大阪府	
	農業	生活科			1 農業科	2 農業園芸科 生産流通 コース	1 農業科 野菜専攻	2 農業科 果樹専攻	2 農業科 作物 コース	2 農業科 畜産 コース	1 農業 経営科	1 ハイ テク科	
普通科目単位数計	49	49	52	51	51	53	53	56	56	54	54	50	56
職業科目単位数計	47	47	45	45	48	51	51	52	52	37	37	52	46
普・職選択科目	◎6	◎6	◎2	◎6	◎2	◎4	◎4			◎8	◎8		
職業科目内選択	(3)		(2)		(2)	(2)	(2f)					(8)	
教科単位数合計	102	102	99	102	99	108	108	108	108	99	99	102	102
合計総単位数	108	108	108	108	105	117	117	114	114	108	108	108	108
農業基礎	3	3	4	4	4	4	4	4	4	5	5	4	4
総合実習	8	8	6	12	18	14	14	12	12	12	12	4m	4
総合実習(外)	6	6	6	[6]		6	6	6	6	6	6	6	6
作物	3 (3)		4 (2)	2	4	2 (2)	4	2	2	4	2	(4)	
野菜	2◎3(3)		4 (2)	4	2 (2)	4	4	8	2	4	5	(4)	8
畜産	2 (3)	2	2 (2)	2	4	2 (2)		2	2	2	5		
食品製造	◎3	◎3		◎2		2m(2f)			3	3			
測量	3		◎2	◎2	◎2			3	3	◎3	◎3		2m
育林	2 ◎3												
造園計画							2m(2f)						2
栽培環境	3	◎3	3	4	4	2 ◎2	2 ◎2	4	4	4	4	3m	
農業機械	4		4	4	4	◎2	◎2	5	2	2m	2m	4m	2m
農業経営	6		6	2	4	2	2	4	4	2m ◎3	2m ◎3	6	
果樹	2 (3)		2	4			2 (2)		8	◎2	◎2	(4)	2
草花	◎3(3)	2 ◎3	2 (2)	2		2 (2)	2 (2)	2	2			(4)	2
△家畜栄養飼料	◎3	◎3			(2)								
△造園材料												5	
△材料施工		6											
●農家経営													
●総合農業													
◆農業情報処理				2								5	
◆課題研究				3									
△飼料													
△造園緑化材料													
△農業土木施工													
情報基礎						2m(2f)	2m(2f)					4	
生物学													
生物学Ⅰ													
生物学Ⅱ													6
園芸生物学													4
環境制御													
農業経済Ⅰ						3							
農業経済Ⅱ						4							
生活科学												2	
商業関係科目				◎2		2m(2f)	2m(2f)						
情報処理Ⅰ												2	
情報処理Ⅱ													
家庭一般		4			◇5	4f	4f			4f	4f	4f	
家庭関係科目		16										7f	

	京都府	兵庫県	2			3			4		5	
	1 農業科	1 農業科	農業系 大学 コース	水田 草花 コース	農業 機械 コース	栽培 類型	飼育 類型	生活 類型	畜産 コース	園芸 コース	B コース	C コース
普通科目単位計	52m50f	47	57	50	50	54	54	54	49	49	57	63
職業科目単位計	38m40f	41	39	46	46	42	42	42	37	37	48	42
普・職選択科目	◎6	◎8	◎12	◎12	◎12	◎6	◎6	◎6	◎10	◎10		
職業科目内選択 教科単位合計	96	96	108	108	108	102	102	102 (8)	96	96	105	105
合計総単位数	102	102	114	114	114	108	108	108	102	102	111	111
農業基礎	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
総合実習	12	10	6	6	6	9	9	9	8	8	8	8
総合実習(外)	[3]		12	12	12	6	6	6	[2]	[2]	6	6
作物	3	7	◎4	2 ◎4	2 ◎4	2	5		4		5	2
野菜	5 ◎2	1	6		4	8		(8)		5	5	2
畜産							8		5			
食品製造									3			
測量						◎4	◎4				3	3
造園計画		◎3							◎3	◎3	2	2
栽培環境	4	3	◎4	◎4	◎4	2m	2m		2	2	2	2
農業機械	2m	2	4	4	13 ◎2	2 2m	2 2m		2	2	7	7
農業経営	2	5	5	5 ◎2	5 ◎2	4 ◎2	4 ◎2	4	5 ◎5	5 ◎5	2	2
果樹	◎2	1								4		
草花	2 ◎2	1		13		3				5		
△家畜栄養飼料									2			
△造園材料	◎4											
●材料施工								4				
●農家経営												
●総合農業												
◆農業情報処理		2	4						◎5	◎5		
◆課題研究												
△飼料												
△造園緑化材料												
△農業土木施工												
情報基礎Ⅰ	2											
情報基礎Ⅱ	◎2											
生物学	2										2	2
栽培											2	2
商業関係科目		◎5							2	2		
家庭一般	4f					4f		4				
家庭関係科目								9◎6(8)				

	岡山県	2 農業科		3 農業科	4 農業科	5 農業科	6 農業科 (A)	鳥取県	島根県	2 農業科	3 農業科 (A)	広島県	
	1 農畜産科	農業系	科産技 系					1 農林科	1 農業科			1 農業経営科	生活型
普通科目単位数計	49	45	45	46	47	48	49	47	54	49	47	49	49
職業科目単位数計	47	43	43	48	50	42	46	44	44	41	46	43	39
普・職選択科目	◎6	◎11	◎11	◎5	◎4	◎9	◎4	◎8	◎4	◎9	◎6	◎6	◎6
職業科目内選択	(3)			(16)					(4)			(6)	(4)
教科単位数合計	102	99	99	99	101	99	99	99	102	99	99	98	94
合計総単位数	108	108	108	108	108	108	108	108	108	105	105	記載	記載
農業基礎	5	2	2	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4
総合実習	6	11	11	8	6	6	6	8	6	10	8	8	2
総合実習(外)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	1	1
作物	3	2	4	5 ◎2	5	2	2	3	6	6	5		
野菜	2 ♣5	◎2	◎2	(16)	2 ◎2	2 ♣2	5	2	2	2 ◎3	2	2 (2)	2 (2)
畜産	4 ♣5	◎2	◎2	(16)	6 ◎2	4 ♣2	2m	2	2	4	2	2 (4)	2 (4)
食品製造	◎3				2		◎2	◎3	2				
測育					2	◎4	◎2	2	4m		2m	◎3	
造林	♣5				2	4 ♣2		2			◎3		
栽培環境	4	◎3	4	4	2	◎5	2 2m	2	◎4	3	◎3	8	
農業機械	4	4m	4m	4 ◎1	2m	3	4	2 ◎2	2	4m	4m	(2)	
農業経営	5	10	2 ◎3	4 ◎2	5	5	5	5 ◎3	3	2 ◎3	6	4	4
果樹	(3)	◎2	◎2	(16)		◎4				◎3	2	2 (2)	2 (2)
草花	◎3					♣2					◎3	2 (2)	2 (2)
農業土木設計												2 (2)	
農地開発												2	
△家畜栄養飼料	(3)									3m			
△材料施工													
△造園材料													
●農家経営													
●総合農業													
◆農業情報処理		6	2			2		2 ◎3	4				
◆課題研究		◎2	◎2		2	2	2	2				1 ◎3	2 ◎3
◆生物学基礎		2	8	2				2					
△飼料													
△造園緑化材料													
△農業土木施工													
情報処理・農業								8				3 ◎3	2 ◎3
専攻学習													
生物学A									(4)				
生物学B									(4)				
農業工学									(4)				
商業関係科目									2				
情報処理 I				2							2		
家庭一般		4f	4f		2 2f		4f		◎2 4f	4f	4f		4
家庭関係科目									3f	◎3	2f ◎3		10 ◎3

	山口県				高知県			香川県			愛媛県		
	1 農業科 経営 開発 コース	1 農業科 教養 コース	2 農業科	3 農業科	4 農業科	1 農業科 経営科	2 農産科学科 農産 農業 コース コース		基礎 農業 コース	1 農業科 経営科	1 農業科	2 農業科 畜産 技術者 コース	
普通科目単位計	48	62	50	57	45	55	50	60	71	51	48	47	47
職業科目単位計	54	40	48	45	54m 52f	35	52	42	31	49	43	42	42
普・職選択科目	(4)	(6)	◎2 (7)	(7)	(8m) (2)	◎15				(3)	◎8	◎10 (4)	◎10
職業科目内選択 教科単位合計	102	102	100	102	99m 97f	105	102	102	102	100	99	99	99
合計総単位数	108	108	108	108	108m 106f	111	108	108	108	108	108	108	108
農業基礎 総合実習	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
総合実習(外)	6	6	13	9	11m 8f	6	12	8	8	8	2m 4	11	11
作物	2 (4)	2 (4)	4 (5)	4	3m	3	5	3	3	2 ♣4	4 ◎4	4	4
野菜	2	2 (2)	2 (5)	(4)	(2m)	◎5		3		2	2 ◎4	◎4	
畜産	2 (4)	2 (4)	◎2	4	(2m)	◎2	7	5	5	2	2m ◎6	2	2 ◎4
食品製造 測定	2				2	◎2				2	◎6	(4)	
造園計画 栽培環境	4				(6m)					2	3		
農業機械 農業経営	2	2	4	2	3	3	4	2	2	4	4	3	3
果樹	6m	2m	2 (2)	2	(6m) 2	3	4	2	4	4	4	2	2
草花	4	4	4 (2)	4	2m 2	◎3	4m	4m	4m	4	6 ◎2	4 ◎3	4 ◎3
造園施工・管理 △家畜栄養飼料 △造園材料 △材料施工 ●農家経営 ●総合農業	2	2	2 (5)	(4)	(2)	◎3				(3)	2 ◎4	◎4 (4)	4 ◎3
◆農業情報処理 ◆課題研究 ◆生物学基礎 ◆農業経済 △飼料 △造園緑化材料 △農業土木施工	2	2	2	2 (3)		◎2 6	2	2		♣4			4
情報基礎 生物学	4	(2)	2	2 (3)	2								
商業関係科目 情報処理 I				(3)	3 4		2 3	4 3	3			2 ◎3	2 ◎3
家庭一般 家庭関係科目	4f 2f	4f		4	4f 12f		4f	4f	4f		4f ◎8f		

	愛媛県 3 農業 経営科	4 農業科	5 農業科	6 農業科	福岡県 1 農業 技術科	2 農業 技術科	3 農業科	佐賀県 1 農業科	長崎県 1 農業科	2 農業科
普通科目単位計	47	49	45	50	54	53	53	48	49	48
職業科目単位計	50	46	47	41	48	49	48	47	49	50
普・職選択科目	◎5	◎2	◎4	◎5				◎4	◎4	◎4
職業科目内選択	(5)				(8)	(6)			(8)	
教科単位合計	102	97	96	96	102	102	101	99	102	102
合計総単位数	108	103	102	102	108	108	107	108	108	108
農業基礎	4	5	4	6	5	4	4	4	4	4
総合実習	10	10	10	11	9	2	2	12	6	6
総合実習(外)	6	1			6	6	5	[6]	6	6
作物	2m	4	2m◎4m	◎2f	2	(8)		2	4 (8)	2
野菜	2◎5	5	◎4m 4	◎2f	2	(8)	3	2	2(8)◎	2
畜産	2◎5	6m	4m◎4m	◎2f	3	3	2	1 2m◎4	2	2
食品製造		4f	2		3m	(2)		2	2	2
測量				◎3					◎4	2
栽培環境	4	2	4	2	4	(4)	4	2 2m	2	4
農業機械	3m	4m	2m	2m	4	4	4	5	3	4
農業経営	8m	5	6	6	4	2	5		6	4
果樹	4m (5)		◎4m 4	◎2f	2		2	2(8)◎4	2	◎4
草花	(5)	2	◎4m 3	◎2f	◎2	(8)	(2)	◎2	(8)	2
△家畜栄養飼料						(4)				◎4
△造園材料										◎4
△材料施工										◎4
●農家経営						8	18			
●総合農業										
◆農業情報処理					4	5				
◆生物学基礎					4	6				
◆食品流通								5		
△飼料										
△造園緑化材料										
△農業土木施工										
情報処理・農業								2		
生物学									2	
酪農									◎4	
養豚									◎4	
商業関係科目		◎2						◎2		
情報処理 I	2	2 ◎2	2	2m ◎3	◎2					
家庭一般	4f	4f	4f	4f				4f	◎4	◎4
家庭関係科目	10f	2f	4f ◎2f	3f ◎2						

	長崎県		4 農業科	大分県					熊本県			
	3 農業経営科 栽培コース	3 飼育コース		1 農業科	野菜	2 農業科 農林業	2 畜産科 大家畜	2 畜産科 中小畜	3 農業科	1 農業科	2 農業科	3 農業科
普通科目単位計	49	49	50	46	49	49	49	49	49	48	46	49
職業科目単位計	45	45	52	52	48	48	48	48	53	48	53	51
普・職選択科目	◎8	◎8	(8)	◎4	◎8	◎8	◎8	◎8	(4)	◎3	◎2	◎2
職業科目内選択 教科単位合計	102	102	102	(10)	105	105	105	105	102	99	101	102
合計総単位	108	108	108	108	111	111	111	111	108	108	110	108
農業基礎	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	7	6
総合実習	6	6	4m 12	6	6	6	6	6	2 6	4m 9	8	14
総合実習(外)	6	6	[6]	6	9	9	9	9	2 6		8	[6]
作物	4 ◎4	◎4	4 (6)	6 (4)	5	5	5	5	3 (4)	4 (5)	6	4 (4)
野菜	2 ◎4	◎4	2	4 (4)	9	3	3	3		2 (5)	4	(6)
畜産			4 (2)	4 (4)	2	2	8	3	2 (4)	2 (5)		4 (4)
食品製造	2	2	2 (2)	2					3	◎3		
測量	3	3			2	8	2	2	3 (4)			
育苗				2	2	2	2	2				
栽培環境	2	2	4 (2)	3	2 ◎2	2 ◎2	2 ◎2	2 ◎2	3m	3	4m	3
農業機械	4	4	2 (2)	4 ◎2	2 ◎2	2 ◎2	2 ◎2	2 ◎2	4m	3	4	4
農業経営	4	4	4	5 ◎2	3 ◎2	3 ◎2	3 ◎2	3 ◎2	6	6	6	4 ◎2
果樹	2 ◎4	◎4	2						2 (5)			(2) 4m
草花												
△家畜栄養飼料		2										
△造園材料												
△材料施工												
●農家経営												
●総合農業												
◆農業情報処理	4	4		(4)	2 ◎2	2 ◎2	2 ◎2	2 ◎2	2	2	4	
◆生物学基礎												
△飼料												
△造園緑化材料												
△農業土木施工												
情報処理基礎			(2)	(6)					7			
情報基礎			(2)							2	2 ◎2	2
生物学 I	2	2	(2)									
園芸技術			(2)							◎3		
施設工学												
林業				(4)								
畜産(大家畜)	◎4	◎4										
畜産(中小家畜)	◎4	◎4										
商業関係科目				(2)								
家庭一般	◎4	◎4	4f						4f	4f	4f	4f
家庭関係科目	◎4	◎4							3f			

	熊本県		宮崎県			2 農業科	3 農業科	鹿児島	沖縄県	
	4 農業・園芸科	5 農業科	1 農業科 経営技術類型	1 農業科 生物学類型	流通類型			1 農業科	1 農業科 農業機械コース	1 農業科 畜産コース
普通科目単位計	50	51	53	53	53	49	54	42	51	51
職業科目単位計	58	55	49	49	49	50	46	44	51	51
普・職選択科目		◎2				◎3		◎10	◎3	◎3
職業科目内選択	(6)	(4)					(6)	(10)		
教科単位合計	108	108	102	102	102	102	100	96	105	105
合計総単位数	114	117	108	108	108	108	110	105	111	111
農業基礎	4	4	4	4	4	4	4	4	6	6
総合実習	2m 12	16	14	14	14	9	10	10	16	16
総合実習(外)	6	6	[6]	[6]	[6]	6	8	6	[6]	[6]
作物		2	2			5	2 (3)	(6)	2	3
野菜	2 (6)	3 (2)				4	2 (3)	(6)		
畜産		3	4			4	2 (3)	(6)		5
食品製造		◎2						(4)	◎3	◎3
測量								(4)		
測育		(2)								
栽培環境	4m	3	(2m)	(2m)	(2m)	4	3	◎3		
農業機械	4m	2				2	*4	2 ◎3	5	3
農業経営	6	6				4	5	2 (2)	2	2
果樹	2 (6)	6				◎3	(3)			
草花	2 (6)					2	(3)	(6)		
食品化学								(2)		
△家畜栄養飼料										
△造園材料										
△材料施工										
●農家経営										
●総合農業										
◆農業情報処理									2	2
◆課題研究			4	4	4				2	2
◆生物学基礎	4		2	2	2	2				2
◆農業経済										
◆食品加工				2	2					2
△飼料										2
△造園緑化材料										
△農業土木施工										
情報基礎	4					2		(2)		
生物学				2	2					
園芸			2	2m	2					
環境制御			2	2	2					
工業関係科目									10	
商業関係科目			7	7	9					
情報処理I			4	4	6			4		
水産関係科目		(4)								
家庭一般	4f		4f (2m)	4f (2m)	4f (2m)		*4	◎4	◎3	◎3
家庭関係科目	6f							◎3	◎3	◎3